

## 金持ちの門前に貧しい人はいる

ルカによる福音書 16:19-31

(そのとき、イエスはファリサイ派の人々に言われた)

「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。そして、金持ちは陰府（よみ）でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。そればかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があって、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこからわたしたちの方に越えて来ることもできない。』金持ちは言った。『父よ、ではお願いします。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行ってやれば、悔い改めるでしょう。』アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けない

のなら、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』」

## 説教

わたしたちの礼拝は入祭唱を唱えてはじまります。きょうは旧約聖書続編「ダニエル書補遺アザルヤの祈りと三人の若者の賛歌」の引用でした。

**神よ、わたしたちは罪を犯し、あなたに背きました。あなたの正義といつくしみを現し、豊かなあわれみによってわたしたちをゆるしてください。主イエス・キリストよ、おいでください。弟子たちの中に立ち、復活のみ姿を現されたように、わたしたちのうちにもお臨みください。**

イエスさまもどうぞいらしてください、とイエスさまのご臨在のもとで礼拝をささげたいという願いを込めて入祭唱を閉じます。

さて、きょうの福音は生前のラザロと金持ちの様子が語られ、死後のそれぞれの様子、かたや天国、かたや地獄という対比が語られます。そして地獄で苦しむ金持ちの願いがことごとく退けられ、アブラハムはその理由をこう論じています。

**たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。ルカ 16:31**

金持ちは乞食のラザロを「死者の中から生き返る者」として自分の親兄弟に回心するように派遣して欲しいと願い出ます。しかし、アブラハムは金持ちは自分だけのことしか気にしない、どうせ聞き入れないだろうと却下します。かりにここでラザロではなくイエスさまが派遣されていたらどうなっていたでしょう。イエスは死んでよみがえり、弟子たちに復活のみ姿を現されました。弟子たちは最初はとまどい、そして信じ、イエスを宣教するものとなりました。はたして地獄で苦しむ金持ちの親兄弟は信じたでしょうか。

あるときイエスは

飢え、のどが渇き、旅をしていて、裸であったり、病気であったり、牢にいる人にしたことは「わたしにしてくれたことだ」といいました。

(マタイ 25:31 以下参照)

かりの話を重ねるならばイエスさまがラザロの姿でよみがえったとしたらどうなるでしょうか。「犬もやって来てはそのできものをなめるような貧しい人」を信じて悔い改め回心することができるでしょうか。

**わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。マタイ 25:40**

いま、わたしたちにお臨（のぞ）になっているイエスさまは「最も小さい者」であり、またラザロのように「犬もやって来てはそのできものをなめるような貧しい人」かもしれません。

信じる人となるか、それとも信じないか。

わたしたちの目が開きイエスのご臨在にきづくことができますように。最も小さい者の内のイエスさまに出会うことができますように。

-----